

学籍番号

氏名

得点

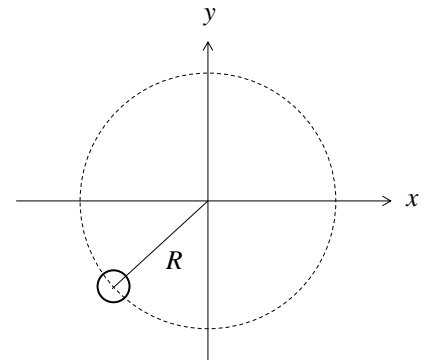
重力加速度の大きさを g とせよ

Q1: 摩擦のない水平な床面で、長さ R のひもにつながれ、一定の角速度 ω で運動する質量 m の点について以下の間に答えよ. ひもの一端を原点とする 2 次元デカルト座標を採用する.

(1) 時刻ゼロで点は y 軸上, $y > 0$ の位置にいた. 点の運動をデカルト座標で成分表示せよ(10).

$$(x, y) = \left\{ R \cos\left(\omega t + \frac{\pi}{2}\right), R \sin\left(\omega t + \frac{\pi}{2}\right) \right\} \cdot (x, y) = \{-R \sin(\omega t), R \cos(\omega t)\} \text{ で}$$

も良い.



(2) 点の速度 \mathbf{v} は, 位置ベクトル \mathbf{r} と直交することを示せ (10).

$$(v_x, v_y) = \{-R\omega \cos(\omega t), -R\omega \sin(\omega t)\}. \text{ 直交性を示すには内積を取る.}$$

$$\begin{aligned} \mathbf{v} \cdot \mathbf{r} &= \{-R\omega \cos(\omega t), -R\omega \sin(\omega t)\} \cdot \{-R \sin(\omega t), R \cos(\omega t)\} \\ &= R^2 \omega \sin(\omega t) \cos(\omega t) - R^2 \omega \sin(\omega t) \cos(\omega t) \\ &= 0 \end{aligned}$$

(3) 点の加速度 \mathbf{a} を \mathbf{r} を使い表わせ (10).

$$(a_x, a_y) = \{R\omega^2 \sin(\omega t), -R\omega^2 \cos(\omega t)\}$$

$\therefore \mathbf{a} = -\omega^2 \mathbf{r}$. ベクトル表記(太字)になっていない解は不正解.

Q2: 一般に, 質量 m の質点の運動方程式は, 極座標では以下のように書かれる(第3回演習参照).

$$m \left\{ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left(\frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right\} = F_r, \quad m \left(2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right) = F_\theta$$

(1) m が原点を中心とする等速円運動を行うとき, $F_\theta = 0$ であることを示せ(10).

等速円運動の条件は $\frac{dr}{dt} = 0$, $\frac{d\theta}{dt} = \text{const.}$. これを $m \left(2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right) = F_\theta$ に代入すれば, $F_\theta = 0$ とわかる.

(2) m が原点を中心とする等速円運動を行うとき, F_r を求めよ(10).

$m \left\{ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left(\frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right\} = F_r$ に $\frac{d^2 r}{dt^2} = 0$ を代入, $F_r = -mr \left(\frac{d\theta}{dt} \right)^2$. ここから直ちに F_r が一定かつ中心力であることが導かれる. 極座標表示の威力を感じてほしい.

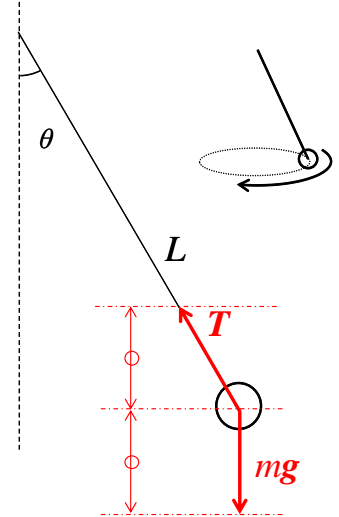
Q3: 角速度ベクトルが $\boldsymbol{\omega}=(1, 0, 1)$ と表される等速円運動の、ある瞬間の位置ベクトルが $\boldsymbol{r}=(2, 1, 0)$ であった。速度ベクトルを求めよ(10)。

$$\boldsymbol{v} = \begin{vmatrix} \boldsymbol{i} & \boldsymbol{j} & \boldsymbol{k} \\ 1 & 0 & 1 \\ 2 & 1 & 0 \end{vmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$

Q4: 図のように、天井から長さ L のひもで吊るされた質量 m の小球が等速円運動を行っている。ひもは鉛直線に対して角度 θ になっている。

(1) 小球に働く張力の大きさを求めなさい(10)。

上下方向の力は打ち消し合うので、 $T \cos \theta = mg \rightarrow T = \frac{mg}{\cos \theta}$.



(2) 小球の回転速度を求めなさい。回転半径が $L \sin \theta$ であることに注意せよ(10)。

向心加速度は $a = g \tan \theta$ で、回転半径は $L \sin \theta$. 公式を使い、

$$g \tan \theta = \frac{v^2}{L \sin \theta} \rightarrow v = \sqrt{\frac{Lg \sin^2 \theta}{\cos \theta}}$$

(3) 小球の回転周期を求めなさい(10)。

公式 $T = \frac{2\pi \times L \sin \theta}{v}$ を適用して、 $T = 2\pi \sqrt{\frac{L \cos \theta}{g}}$.

Q5: 自動車が一一定の速さで半径 R の円弧状のカーブを曲がる。タイヤと道路の摩擦は静止摩擦と考えて良い。静止摩擦係数を μ_s , 路面が水平のとき、自動車がカーブを曲がれる最大の速さを求めなさい(10)。

自動車の質量を m と仮定。 F_r の最大値は $\mu_s mg$, これが最大速度で回る向心力だから、 $\mu_s mg = m \frac{v^2}{R}$.

$$v_{\max} = \sqrt{\mu_s Rg}$$